

令和6年

水稲病害虫防除情報

第1号（7月17日発行）

発行者	兵庫県農業共済組合 穴栗事務所	(0790) 60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	(0791) 63-5174
	穴栗市 農業振興課	(0790) 63-3109
	兵庫西農業協同組合	
	しそ営農生活センター	(0790) 62-6617

1 水稲の生育状況・病害虫発生状況

6月21日に梅雨入りし、その後の降水量は平年と比較して多く、日照時間は少なくなりました。向こう1か月の日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並か多く、気温は平年より高い予報です。（1か月予報 大阪管区気象台 7月4日発表）。

▶病害虫調査結果（7月11日調査）南部地区

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	一部で葉いもちの発生を確認しました。
紋枯病	一部で少程度の発生を確認しました。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	一部で少程度の発生を確認しました。
ツマグロヨコバイ	今回の調査では確認されていません。
ニカメイチュウ	今回の調査では確認されていません。

2 調査結果詳細

令和6年度 第1回

水稲病害虫発生状況調査 結果一覧表

調査日：令和6年7月11日 天候：曇り

調査 地区名	作付品種	田植日	病害(抽出25株中の発病株数)								害虫発生状況								その他
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロ ヨコバイ	ヒメビ ウンカ	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ	バッタ類	フタオビ ゴヤガ	カメムシ	箱施用剤	有・無
			発病 株数	発生 程度	発病 株数	発生 程度	発病 株数	発生 程度	発病 株数	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	発生 程度	
中比地	ヒノヒカリ	6/1	2株	少								少							有
矢原	兵庫夢錦	5/24																	有
宇野	キヌヒカリ	5/13	12株	少															有
青木	きぬむすめ	6/9	5株	少															有
葛根	コシヒカリ	5/19					1株	少				少							有
西深	コシヒカリ	5/18	5株	少								中	少				少		有
杉田	コシヒカリ	5/11	2株	少								少	少						有
谷	コシヒカリ	5/10	4株	少							少		少				少		有
西山	コシヒカリ	5/11	10株	少								少	少						有

3 病害虫について

●いもち病

今回の調査では、葉いもちの発生が見られました。

今年の天候は7月以降にいもち病の感染好適条件が多くみられます。特に葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などを注視し、葉いもちが発生していないか確認してください。多発する場合は、栽培ごみ等を参考に防除を実施しましょう。

●トビイロウンカ

収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカは、7月5日現在、県内で飛来を確認されていませんが、株元のトビイロウンカの増殖を見逃さないようにこまめに見回り、適期防除を実施しましょう。

トビイロウンカ（秋ウンカ）とは

- 主に6月～7月の間に大陸から風によって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- 飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、急激に増殖する
- イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- 気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある

移動型(長翅型)



- 体長約4.5 mm
- 翅が長い
- 大陸から飛来

定着型(短翅型)



- 体長 約3 mm
- 翅が短い
- 増殖スピードが速い

●カメムシ類

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。出穂期の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み、逆効果となる場合があります。多発している場合は、穂揃期頃に防除を行いましょう。



イネカメムシ

ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

アカスジカスミカメ

4 有効な薬剤等

品種	防除時期	主 な 薬 剤 名	
キヌヒカリ コシヒカリ	7月下旬～8月上旬 (出穂7日前～出穂始め)	ビームトレモンセレン粉剤DL	(カメムシ類・ウンカ類) トレボン粉剤DL
きぬむすめ ヒノヒカリ	7月下旬～8月上旬	アプロードロムダンモンカットF 粉剤DL	【収穫7日前まで】

※住宅地などで粉剤防除が難しい場合は粒剤での防除を！（粉剤より少し早めに）

品種	防除時期	主 な 薬 剤 名	
キヌヒカリ コシヒカリ	7月下旬	コラトプトレボン粒剤	(カメムシ類・ウンカ類) スタークル粒剤
きぬむすめ ヒノヒカリ	7月下旬～8月上旬	モンガリット粒剤、コラトプトレボン粒剤	スタークル豆つぶ 【収穫7日前まで】

☆薬剤は使用量等登録内容を十分確認し、適切にご使用ください。

※薬剤に関する詳細は、龍野農業改良普及センター、JA兵庫西しそ営農生活センター（上記連絡先）までお問い合わせください。

《 中 干 し 》①無効分げつの抑制、倒伏軽減、コンバインの作業性向上のため、中干しを行いましょう。

目安は1株あたりの分げつが16本～18本程度の時期で、ほ場に軽くひびが入る程度（5～7日間）を標準とします。

②中干し後は、間断かん水による水管理で根の活力を維持しましょう。

《 そ の 他 》①バッタやカメムシ類の水田侵入を減らすため、出穂2週間前までの畦草刈りを徹底しましょう。

②長雨で深水が続く、茎数が抑制されている場合は、天候を見て浅水へ移行しましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。作業中の熱中症対策を忘れずに！